

令和二年八月一日発行（毎月一回）
書象 第六十八巻 第八号 通巻七十七号

書象

日本書道芸術協会
SHO JAPAN
設立1951年
代表理事 藤原 正行
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
電話 03-5561-1111
FAX 03-5561-1112
E-MAIL sho@sho-japan.com



日本書道芸術協会

2020-8

高校生のパフォーマンス書道について思う

常任理事 露崎玄峯



お茶の水女子大学附属高等学校 輝鏡祭文化祭『TEAnager』～書道部～ 2017.9.16～17

「書道パフォーマンス甲子園」をご存知でしょうか。毎年愛媛県四国中央市の四国中央紙まつりに行われる高校生を対象にした大会です。パフォーマンス書道は、福岡県のある高校で誕生したようです。この高校では、以前から運動場など屋外で大きな紙に「書」を書いていました。そして、全国の高校文化祭を紹介するテレビ番組内で当時人気のアーティストの曲に合わせて十数メートルの紙に歌詞を書き上げた様子が放映されたことから評判になり、多くの高校が取り入れるようになったそうです。その後、和紙の町として知られる愛媛県四国中央市で、「書道パフォーマンス甲子園」が開催されるようになりました。

本会の蕪木珠紅さん（常任理事）が指導しているお茶の水女子大学附属高等学校でも、二〇一〇年に公開された映画「書道ガールズ・わたしたちの甲子園」に触発され、このパフォーマンス書道に取り組みようになったそうです。はじめは書道経験の浅い生徒たちで手探り状態でスタート。剣道の袴姿で大きな紙の上を特大の筆を持って動き回るといふパフォーマンスに人気が集まり、有志だけで始めた活動からクラブに昇格し、文化祭や公の場でのパフォーマンスを披露するようになりました。チームで考えチームで実行していく。全員が役割分担の「書」を練習し自信を持って書けるようになる。何よりも心一つにして取り組むことは一体感を生みだし、書き終わって見ている方の歓声に包まれた時に、大きな充実感を味わうことになりました。この書道パフォーマンスは、大字を書くということも魅力の一つです。一気呵成に書き上げる大字の「書」は、見ている人に感動を与えます。

さて、上條先生が日展の新審査員になられた頃、「審査する立場にある者は作品においても範たるものでなければならぬ：現代性を盛ることが大切だ」として、二文字の大字作品「紅爐」（昭和三三年日展）を書かれました。（書象二〇一九年一月号一七頁）先生は、これまでどれだけ多くの大字作品で私たちの心を魅了してきたことでしょう。「谷神不死」「堅勁」「高風」「剣光」「西郷南洲詩偶成（2×8尺八幅）」数えきれないくらいの大字作品は、私たちに大きな感動を与え続けてくれました。最近の公募展出品作を見ると、多字数を書かれる方が多いようです。大字作品は、信山流の筆法が身についてこそできるものです。毎月、一七頁の図録紹介で信山先生の書が紹介されています。初心に帰って、本格の信山流に取り組んで、大字作品にも挑戦してみましよう。



月落ちて天を離れず

8月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

行書臨書規定【臨規】

(師範・準師範・段位)

集王聖教序

上條信山先生書

善提薩 埵般若

菩提薩埵は、般若

8月20日必着
出品券を貼付

・行書の点画の「とめ」は、強く押したり長くどまるとはありません。軽くとまると、次の画に続けていくためにくり返しの練習をして下さい。形や空間、偏と傍の関係などに気をつけたい。



・「埵」の二画目は細いが、細く書くことが大切なことではなく二画目から三画目に続く流れを意識して書く。



觸法

・線の細太、中心に気をつけて伸びのびと運筆する。

觸：画数が多いので、特に平行感を意識して書きたい。



・次の画へつなげる気持ちで。

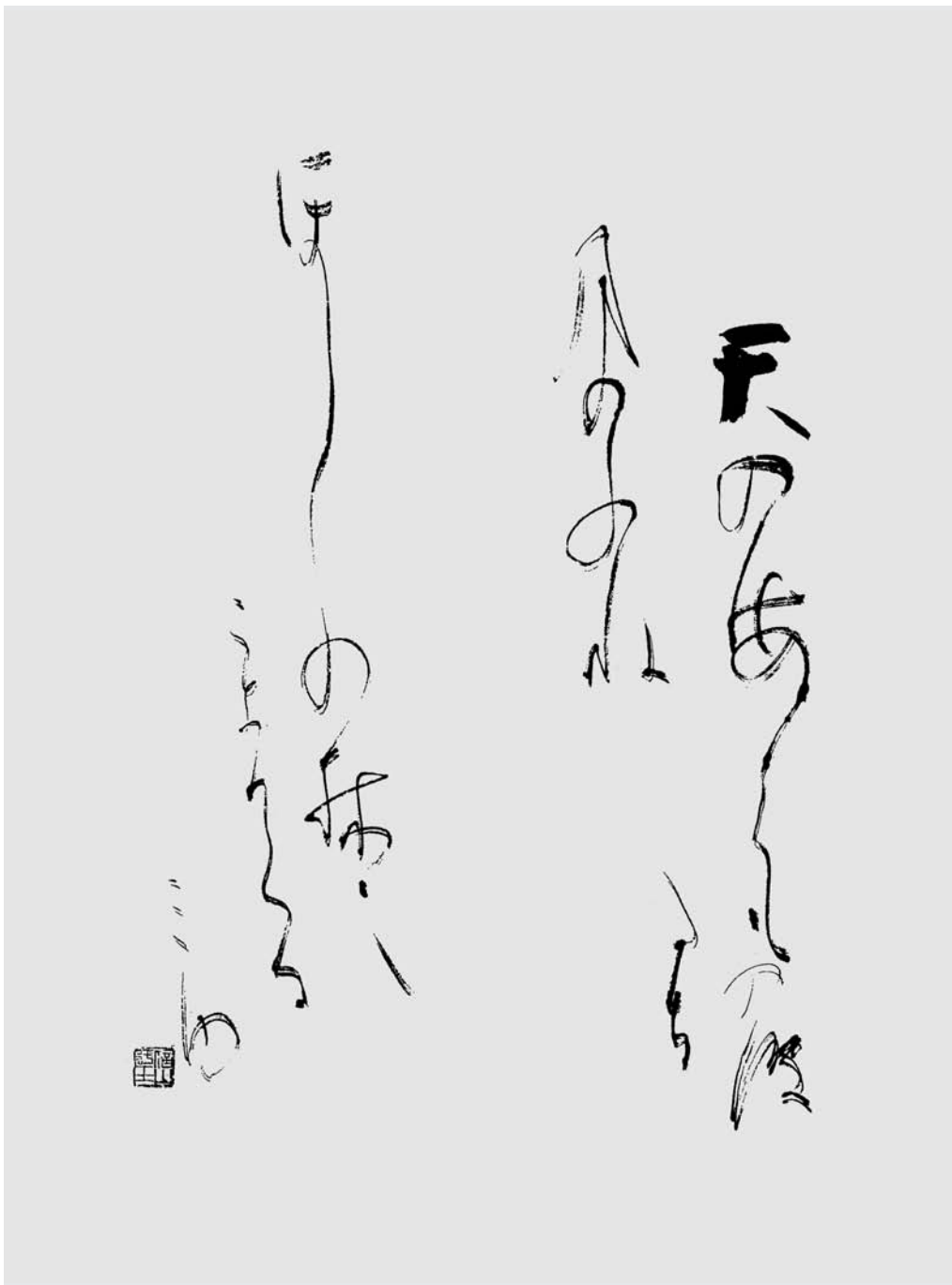


法：太くゆったりと。



仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

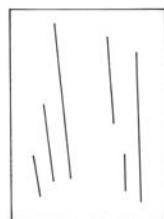
上條信山先生書



天の海くもの波た(多)ち月のふねほしの林に(二)こぎ(支)か(可)くるみ(三)ゆ(柿本人麻呂)

8月20日必着
出品券を貼付

・全体構成は左図参照。



・文字の概形を意識し、上から下への流れを出す。
・各行の傾きに留意して、くり返し練習する。

【海】

海

【くもの】

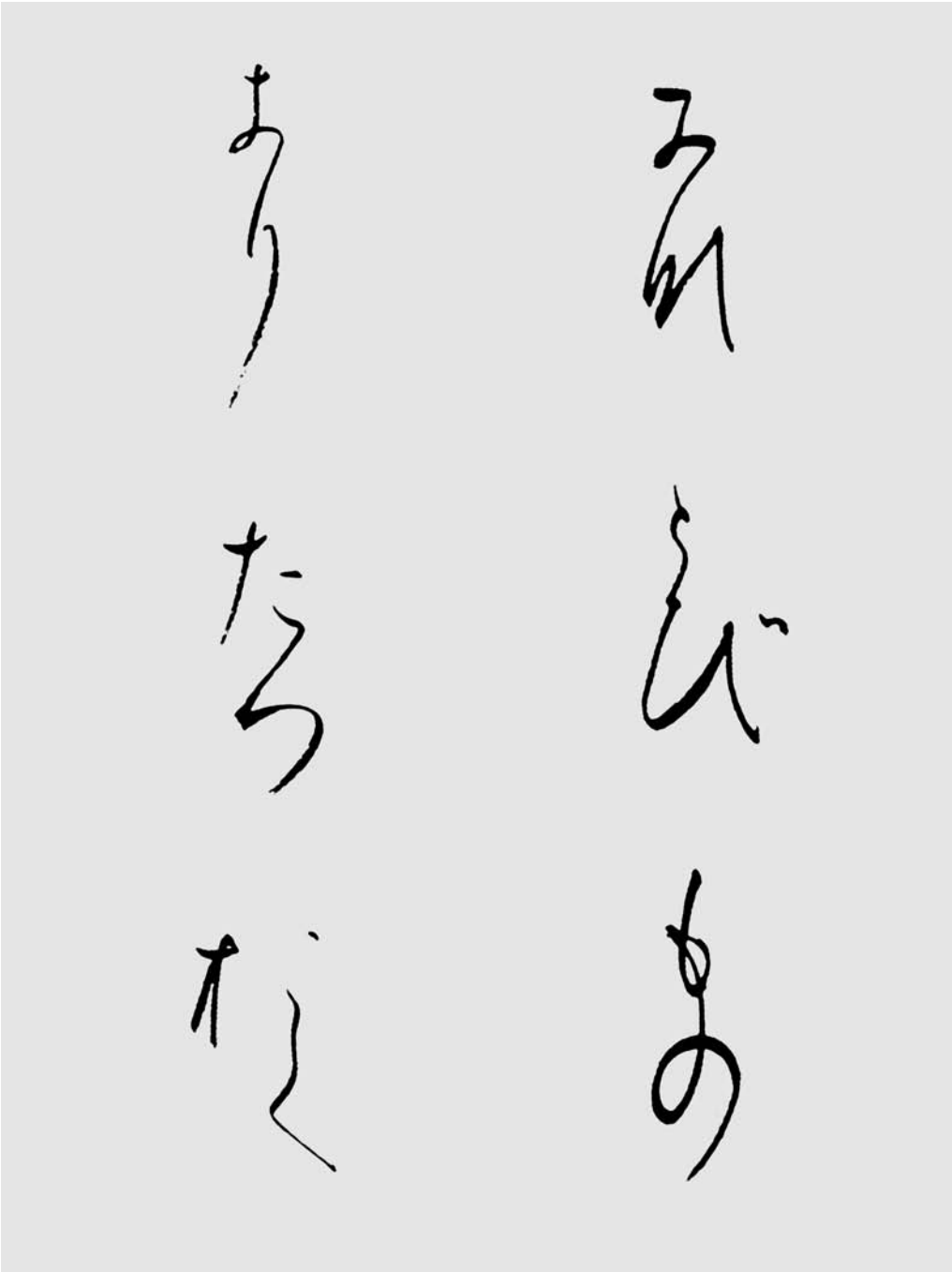
くもの

【波】

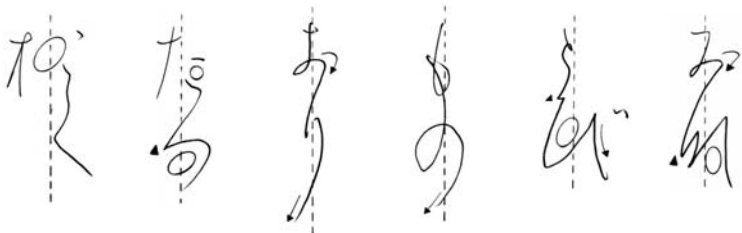
波

【林】

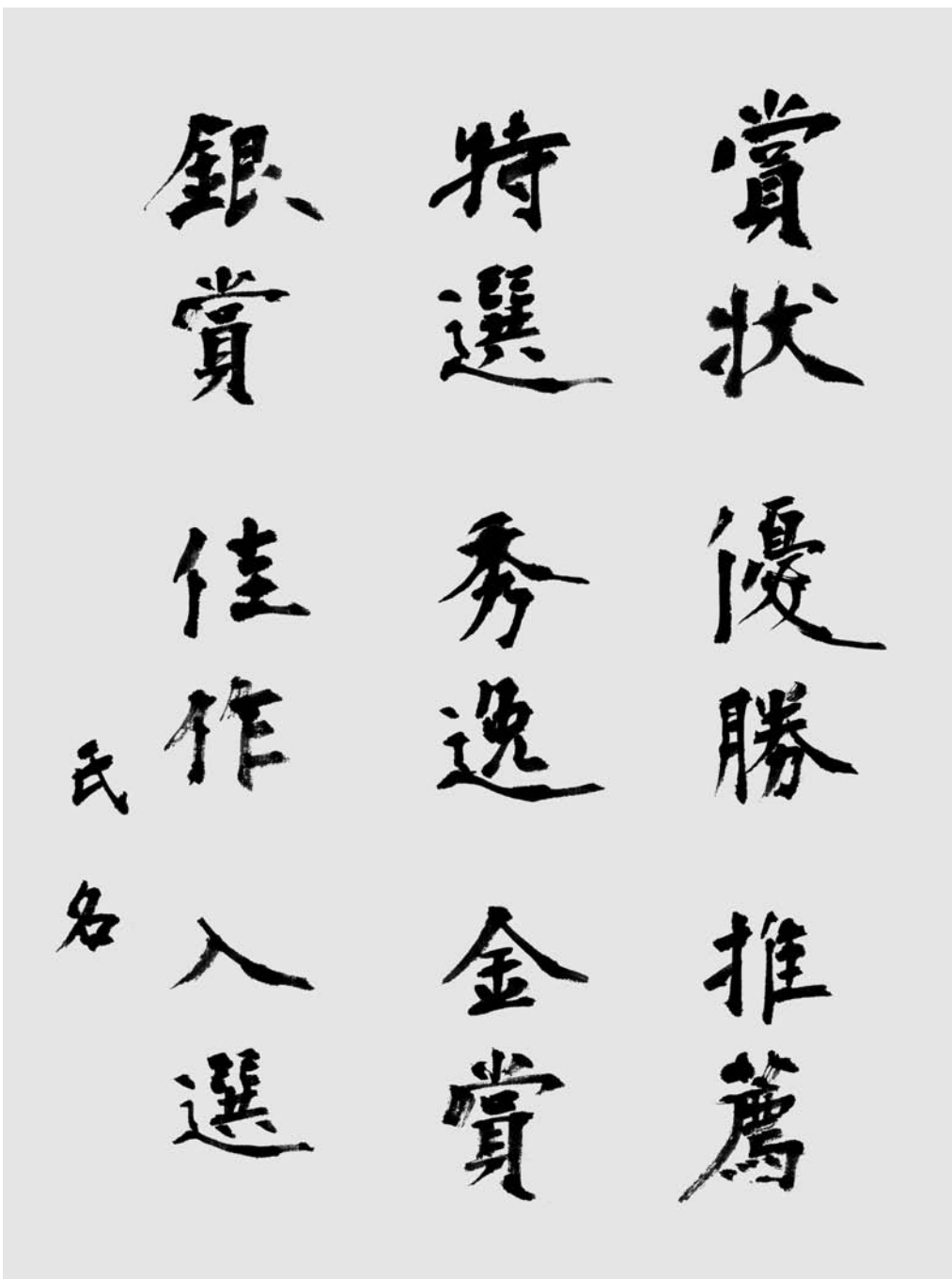
林



みな(那) とびものき(支)り たつお(於)く



- ・上の字と下の字との連なる部分をゆったりとつなげて書くようにしたい。
- ・中心を意識し、▲ではしっかりと筆を突く。



・今月は信山書法による実用書です。

・筆を十分におろして、筆先を使って書く。

・墨は多めに含ませる。

賞状 優勝 推薦 特選 秀逸
金賞 銀賞 佳作 入選

8月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します



沙鷗自去來す (信山詩)

- ・文字の概形を把握した上で書きたい。
- ・「沙」の左払いは腕を大きく動かし勢いよく払う。
- ・画数の少ない「自」「去」は太い線で書く。
- ・「沙」「鷗」「来」はP14参照。

条幅随意【条随】

内藤望山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



衆鳥高ク飛ンデ尽キ 孤雲
独り去ルコト閑ナリ (李太白詩句)

- ・字形を中国北魏書法に見られるように左傾にして上下のリズムをとる。
- ・横画の右上がりを統一する。

開宇
登宙

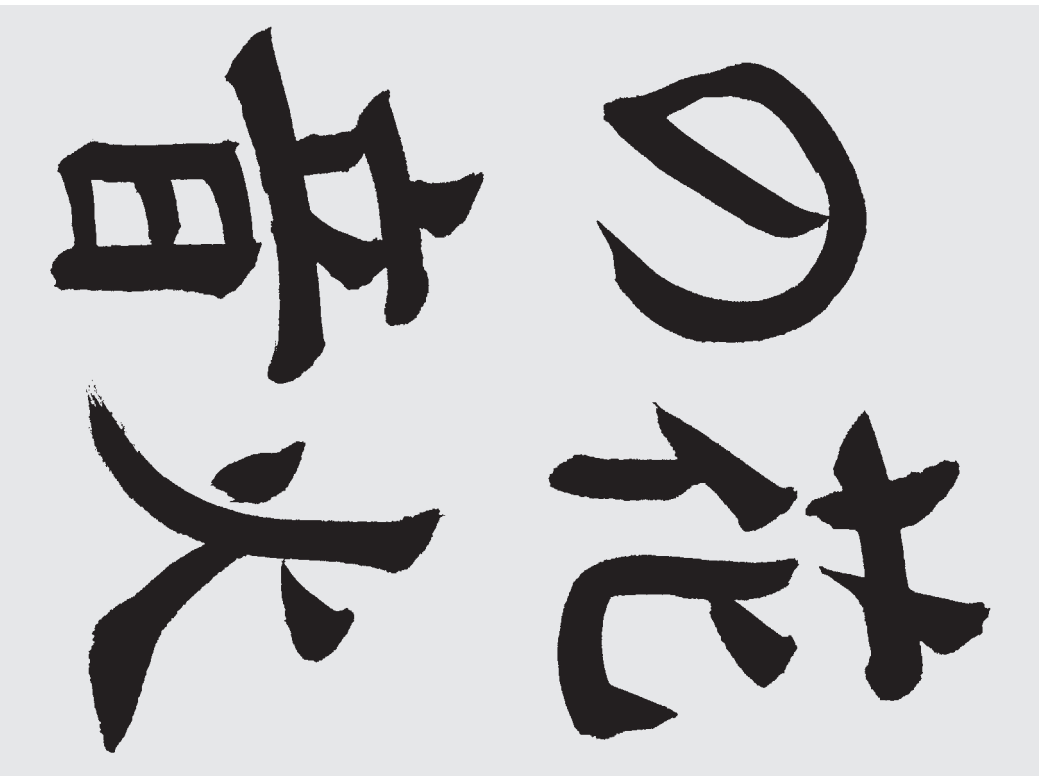
中学一年規定 【学毛】

細中高山先生書

夏
日
休
記
子

中学二・三年規定 【学毛】

二瓶嶽風先生書



小学五年規定 【学毛】

露崎玄峯先生書



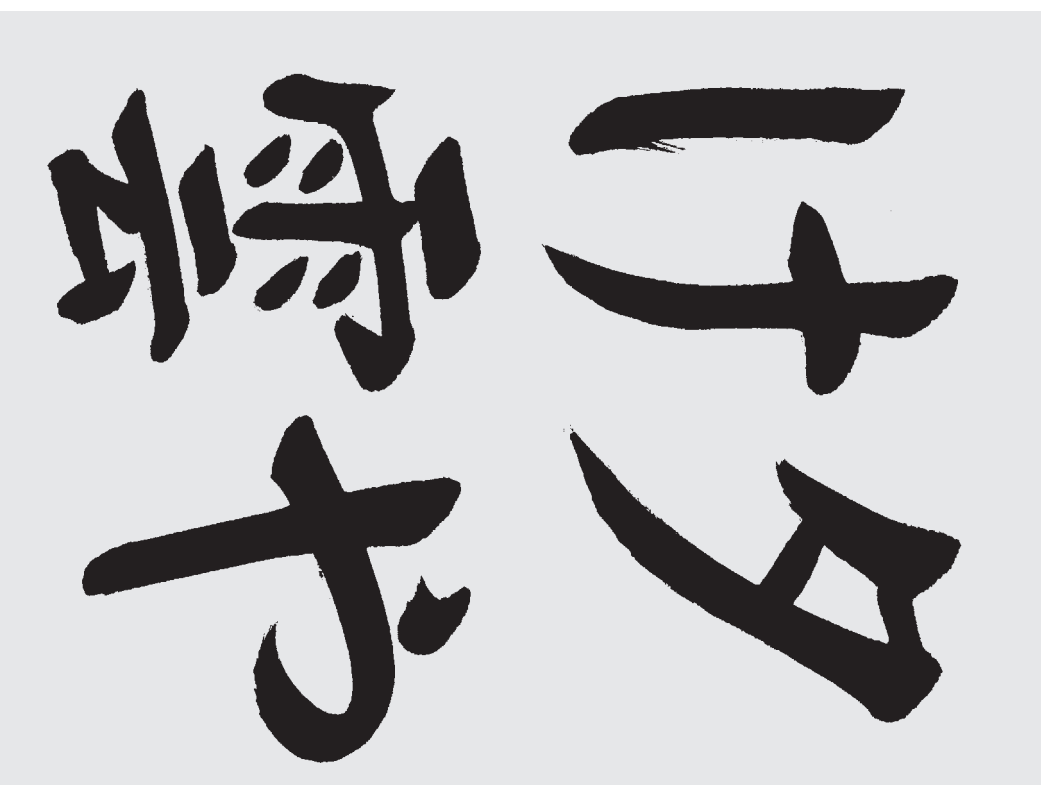
小学六年規定 【学毛】

小淵石峯先生書



小学三年規定 【学毛】

田中珠光先生書



小学四年規定 【学毛】

荻田光山先生書



小学一年規定 【学毛】

竹内藍山先生書



小学二年規定 【学毛】

渡辺華雪先生書

硬筆規定

一般規定【一硬】(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生書

昔、中国の李という人が岩を虎だと思って、矢を射
たらつきささ(ト)ってしまった何事も真剣に(ニ)やれ
ば(八)出来な(那)いことは(八)な(奈)い。
と
思
っ
て、
矢
を
射
た
ら
つ
き
さ
さ
し
ま
ま
に
ま
た
何
事
も
真
剣
に
や
れ
ば
出
来
な
い。
と
い
ふ
い。

一般規定【一硬】(級位)

藤岡 月華 先生書

ピース・ピースと啼く小鳥達の声を
聞きたびに、私は世界平和を願わ
ずにはいられない。

中学規定【学硬】

杉山 暁雲 先生書

毛筆の力強い字は、心を平静に
置き、筆はしっかり握り、丹田に
力を込めて書きます。

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。
出品券を貼付して下さい。

小一・二年学	大	小三・四年学	活
小五・六年学	世界	中学	感動

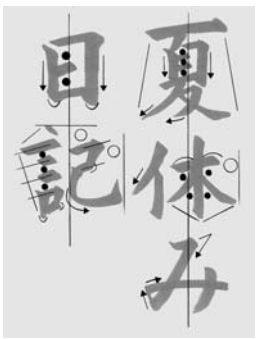
手本解説

・硬筆一般規定(師範・準師範・段位)「国(國)」「何事」「出来」は左図参照。

国 何事 出来
沙 鷗 来

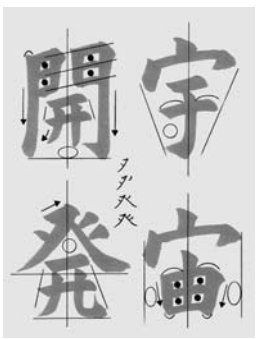
・漢字条幅規定「沙」「鷗」「来」は左図参照。

学生部規定



中学二・三年

「夏」は目の縦画を垂直にし、二つの左
払いはその方向と位置に注意する。「休」
は木の左右の払いのバランスに気をつけ
る。「日」の縦画は垂直、横画は等間隔
に。「記」の偏の横画は平行・等間隔に
する。



中学一年

「字」は心を最大幅とし一・六画目は中
心線上に書く。「宙」は由の左右二本の
縦画はやや内側に向ける。「開」は門の
縦画を垂直、横画は等間隔にする。「発」
は上部の広がり注意到し筆順を正しく書
く。

夜空にかがやく北極星は、昔
から方角を知る目印として
役立ってきた。

名前
支部 年 級段

行列するはたらきありの
体の仕組みをウイルソンが
研究しました。

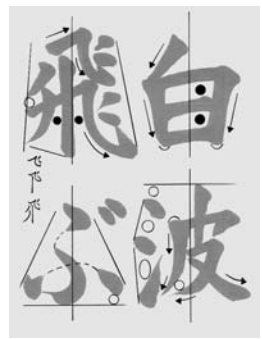
名前
支部 年 級段

青	い	い	い
う	か	か	か
み	も	も	も
の	め	め	め
上	が	が	が
を	と	と	と
白	ん	ん	ん
	で	で	で

なまえ
支部 年 級段
だん きゅう

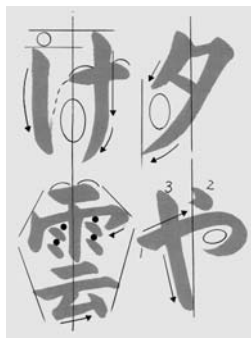
※出品券を貼付して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用のこと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさを下へ18 cmよこ7 cm 小一・二課題↓2.1 cmのマス目の紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1 cm巾の罫線を引く。



小学六年

「白」は二本の縦画はやや内側に向ける。「波」はゞの点画の位置とバランスに注意する。「飛」は筆順と四画目の縦画の位置に注意する。「ぶ」の外形は三角形、二画目の角度に注意して書く。



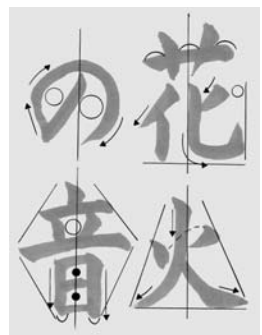
小学四年

「夕」は二本の左払いの長短・角度に注意。「や」は筆順に注意し、三画目は伸びやかに書く。「け」は「一・三画目は始筆位置と余白の取り方に注意。「雲」は雨かんむりの幅に対して云を小さく扁平にする。



小学二年

「は」の三画目は横画の中心より右寄りの位置から書き始める。「な」は「一・二画目の交わる位置に注意する。「び」は始筆から折れの後は外にふくらむように運筆する。



小学五年

「花」は上下の組み合わせ方、最終画の曲がりの方向に注意する。「火」の「一・二画目は筆脈を意識し、左右の払いを最大幅とする。「の」は中心線から書き始める。「音」は日の縦画を垂直に書く。



小学三年

「糸」の「一・二画目は約45度の角度で平行にする。「と」は始筆と終筆の位置関係に注意する。「ん」は折れの角度と方向に注意する。「ぼ」のむすびは丸みをつけて軽く止める。



小学一年

「う」は縦長の字形を意識する。曲がりは腕全体を生かしてゆったりと書く。「み」は右上がりに書き始め、折れの後を長く書く。むすびは三角形を意識する。

古典研究シリーズ ④⑥ 【古典】

乙 瑛 碑

後漢・永興元年（一五三年）

今月のテーマ

表現的臨書

書き方

- ① 半紙は縦・横自由。
- ② 文字数は2〜4字。2月号から8月号に掲載している中であればどの部分でもよい。
- ③ 落款を入れて下さい。
- ④ 作品の表左下に、支部名と氏名、又は号を鉛筆で記入して下さい。古典研究の出品券を貼付して下さい。（編集部）

※P 20、21に上條信山先生が提唱する新しい臨書方法を掲載しています。作品制作の参考にして下さい。



表現的臨書（A）：線に主観を加える。

〈手順〉①最初に写実的臨書を何回も繰り返して、徹底的に『形』に迫る。

②形が把握できたら、その形を守って線に作者の意志を働かせ、線表現を試みる。

〈方法〉A、運筆に変化を与える。

- ・筆圧を加える。
- ・遅速緩急をつける。
- ・細太、強弱をつける。
- B、筆の種類を変える。
- ・短鋒、中鋒、長鋒、羊毛、兼毫、剛毛、鶏毛、竹筆など使ってみる。
- C、墨色を工夫する。
- ・濃墨、淡墨、にじみ、かすれを効果的にする。
- D、様々な用紙を用いる。
- ・厚め、薄め、つるつる面、ざらざら面、染紙など使ってみる。

※試行錯誤を繰り返して、新しい線表現を試みて下さい。

※参考―現代臨書大系（小学館）

「書業六〇年記念上條信山作品集（一九八九年）」その1

一九八九年四月二八日から五月三日まで東急百貨店日本橋店にて「書業六〇年記念上條信山展」が開催されました。二瓶嶽風先生に解説を加えていただきました。

①「風雲待我」（一九八六年）縦二二〇cm 横三八五cm （どこに潜んでいるの？）



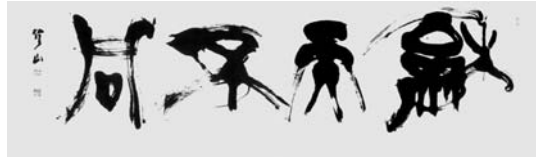
① 風雲待我

会場に高く掲げられ、（信山ここにあり）と言わんばかりに、見る者の度肝を抜く。全体構成は文字の頭を揃え、「風」・「雲」・「我」は字形を左に傾け、



② 白居易詩

④ み山べのみ雪とけなば…



③ 和而不同

左上方への飛躍（動勢）を強く意識させるものになっている。「待」字は作品全体の中央ではないが、小さめで正面を向いて全体としての安定感を持たせている。主役（信山）は、ここ「待」字にそっと、そして確かに存在しているように思えてならない。この作品から思い起こすのは一九八五年日展出品作「義」や一九八七年の「山月」である。しかしこの宿墨による激しいまでの滲みやほとぼしりは見る者を圧倒する。淡墨による清らかなイメージで豊かな墨量による透明感は、冬の信州アルプスの山々を彷彿とさせるものがある。

② 白居易詩「賦得古原草送別」（一九八六年）縦五九cm 横一〇二cm （長さにビックリ！）

全体として書き出しから十分な墨量で始まっており、小書きを含めて、五か所の墨継ぎによって、潤濁の変化が明瞭となり、作品に奥深さと立体感を持たせている。特に「草」、「翠」の厚みのある長い縦棒と、動きのある線が作品全体に美しい空間を作っている。主に二字連綿を多用し、大小の変化と流れを見せている。骨力に富んだ強さと爽やかさが印象的である。

③「和而不同」（一九八五年）縦七一cm 横二四二、五cm （鼓動する心の響き）

篆書と隷書の一体化？豊かな墨量による書き出しに始まって、後半部分に強烈なスピードと筆圧によって激しい動勢を見せる。また直線と曲線を巧みに使いながら、一字一字に緊迫感をみせて圧倒してくる。特に四字の上下左右の収画の動きと方向性に目を遣りたい。四方八方への自由自在の筆致が今にも踊り出しそうな雰囲気である。また「蘇」「不」「同」字の、囲まれた△、▽、□の空間の取り方の工夫が魅力的。大胆な造形が実に楽しそうである。

④「み山べのみ雪とけなば」（一九八五年）縦二一〇cm 横五〇cm （かな作品なのかな？）

墨の使い方はかな的発想ではなく、漢字作品を制作する方法と言った方が良い。出だしと二行目の後半の大胆な墨継ぎは、線弱さを見せることなく深みを持った明快さが潔い。息の長い渴筆の線は明るさを一層増して、堂々たるものに仕上がっている。「あらし」の「し」の長さには驚くが、「とぞ思ふ」を小さく纏めている手腕は流石である。

（副理事長 二瓶嶽風）

第59回書象展

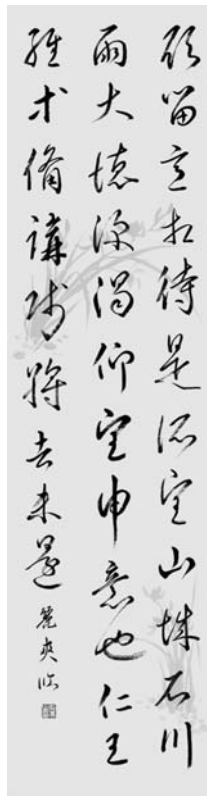
書象賞



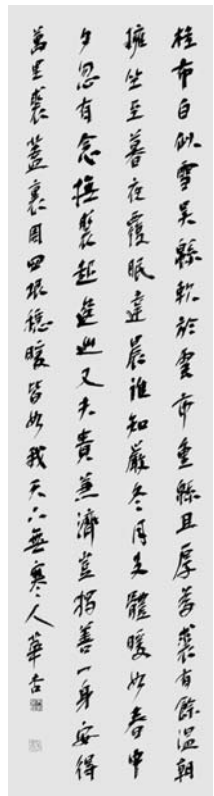
加賀美節真



会期 6月11日(木)～21日(日)
 会場 国立新美術館2階C・D



川久保麗爽



門脇 華杏



影山 天性



大村 玻玉

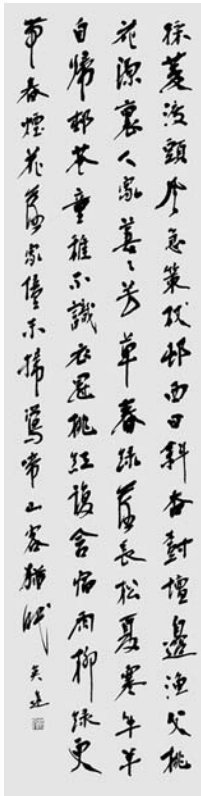




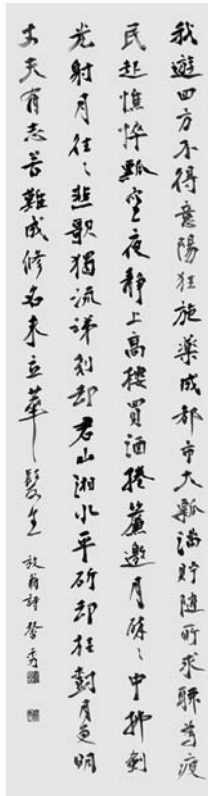
野生司陽子



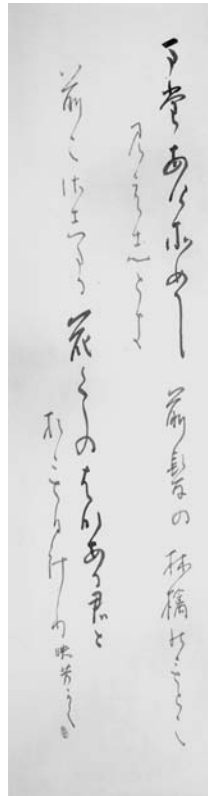
横山 京節



御子柴英遠



松岡 馨秀



田畑 映芳



小林 訪泉



新しい臨書法

上條信山先生編著 現代臨書大系（小学館）より

現在行われている臨書法は、形臨、意臨、背臨の三者であって、いずれも大切な伝統的研究方法であることに変わりはないが、しかし、この臨書法は文字を書くことを通して自ずからにじみ出る美しさを楽しんだ時代のものであって、意図した美しさを創り出すとする造形中心の今日にはそぐわないものになっている。形臨といっても実践の姿は種々様々であり、意臨もその意義の不明確なため、その方法論さえ確立せず、背臨は形臨においてどの程度の点画の形成や、形のとり方を把握したかを試すに過ぎない。

特に創作力との関係に至っては、ほとんど把えられていないといつてよい。臨書が

◆印象的臨書

印象的臨書は、書の学習上極めてたいせつなものである。書が芸術としての性格をそなえるためにはまず感性が広く豊かで、かつそれをそのまま素直に表現する力が必要である。技術の固定化を極力避け、柔軟な書表現のための土壌づくりが印象的臨書の主眼である。

印象的臨書は、直感的にとらえた対象（手本法帖）の特質を中心に臨書していく方法である。印象というものは、あまり細かい所まで眼が届くものではない。直感的にとらえた印象で、形の特徴、つまりその形と動き、筆使いの調子を大まかにとらえて臨書するわけである。これによって非常に柔らかい、幅広い書感覚が磨かれるようになり、型にはめ込むことの危険性からものがれることが出来るわけである。従来、このような臨書学習はほとんど行われていなかったと言つてよいであろう。

◆写実的臨書

印象的臨書では対象の特質を直感的にとらえ、浅く幅広い表現力を求めたが、写実的臨書は、対象の形と全く同じように徹底的に古典の形に迫ろうとする方法である。徹底するとは、その外的要素と精神的要素、特に外的要素に迫ることである。こうして迫りに迫ってはじめて手本（古典）と全く同一の形を把握することになる。書の芸術は、形と線の芸術であるから、形をゆるがせにしてはその対象の本質を捉えることは不可能である。かくして一帖に徹すれば、その古典の中に蔵されている素晴らしい書的基础技術が正確に体得出来ることになる。この方法で二帖、三帖を能くすれば、その書的基础技術はいよいよ深く幅広いものになる。

従来、この点が極めてあいまいなものになっていたため、臨書の本質が不鮮明なものとなり、ひいては作品そのものも根底のないものになり勝ちであった。個性さえあれば良い書であるなどは全くの暴言にすぎない。このことは単に書だけではなく、すべての造形芸術の共通条件であろう。

「まねること」であるという考え方をまず根本的に排除しなければならない。そして、造形芸術としての基礎づくり、表現力育成中心の新しい臨書法の樹立こそ急務である。

そこで本書では、

○ 印象的臨書

○ 写実的臨書

○ 表現的臨書

とし、新しくその内容を考えてみることにした。

◆表現的臨書

書は、形と線の芸術である。表現的臨書は、ただ形を忠実に臨書するのではなく、さらに一歩進めて形と線に自己の主観を投入することである。すなわち、芸術的意志を加えることによって形と線質を無限に変化させることが可能となり、これによって書の創作技術を根本から養うことになるわけである。

① 線質に主観を加える

写実的臨書は、徹底的に古典に迫る方法であり、印象的臨書は、幅広い書感覚を煉る方法であった。これに対して、表現的臨書には創作的性格が強く加わって来る。表現というものは、自己が主体となること、つまり自己の主観を強く加えることである。ただ形をまねるというだけではなく、そこに主観を投入するわけである。主観を入れるとしても、臨書という範囲においては形を勝手に変化させることは許されない。これには、その古典の構造性をしっかり把握してから行うことが当然のことながら要求される。しかし、写実的臨書であってもその線質を変えることは全く自由である。

この表現的臨書は、書にとって重要な問題である。というのは、書の芸術は一言にして言えば「線」と「形」の芸術であるからである。線と形に変化を持たせる、表現意図を表出するということは、書においてはとりも直さず創作の世界に踏み込むことである。内容的に言えば、対象の姿を借りて自分を打ち出す、自己を表現するということになる。例えば、ここに一つの古典がある。これを写実的、あるいは印象的に臨書するのではなく、この古典の形そのものを変換することなく、その形を構成している線そのものを自在に変化させる臨書が表現的臨書の態度である。

具体的には、例えば、自分が今、目の前にした古典が非常に細い線で書かれていたとする。これを写実的に臨書しながら、太い線で書いてみる。細い線で書いてみる。重厚な線、素朴な線、軽快な線、古淡な線、単調な線、律動な線、にじんだ線、かすれた線、強い線、軟らかい線、等々工夫してみると、結果的には、原典と形は同一だが表現は全く異なったものとなる。こう考えてみると、線質を変化させる根源的なものは、細太、遅

速、緩急などの他に、筆の材料の硬軟、大小、長短、形、さらに墨色の変化、また他に、執筆腕法によっても表現は無限に展開してくる。また、紙の質の変化にしても同様である。つまり、古典の形を借りて、そこに作者の表現的意図を加えて躍動する生きた線によって臨書するわけである。

線に主観を加えることは、芸術としての書には根本的なものであるが、今までの臨書学習ではあまり考えられていなかったわけである。

⑤ 形に主観を加える

臨書には、対象の形を厳格にとらえる場合と、対象の性情風格をさらっととらえることを中心としたり、さらに線と形に自己を投入する場合とがある。

自己を投入すること、これが臨書を生きたものにする最も大切なことである。どういふ線質にするかを考えることなしに臨書したのでは、「まね」に終わる以外にはない。ところで、線に主観を加える表現的臨書においては、前述のように線表現の多様化が考えられるがこれと同様に、形に表現意図を加えることも考えられる。対象の古典の性情を汲みとり、それに形への表現意図を加えて形に変化を加えることも可能である。

文字性を否定しない範囲内で、作者の造形的意志を十分生かし、形を長くしたり、扁平にしたり、細太をもたせたり、湾曲させたりして、その人らしさの表現された臨書作品を作るのである。

先人の臨書において、同じ法帖を臨しても、その本質をとらえていて、しかも各々風格が異なっていて、その人らしさがうかがえるのである。

こうした表現的臨書によって創作への技法は大きく培われてくることになるが、このことも今日まであまり実践されておらず、臨書が単なる「まねごと」に終わってしまい、表現という芸術活動に直結を欠いていたのも明白な事実であった。

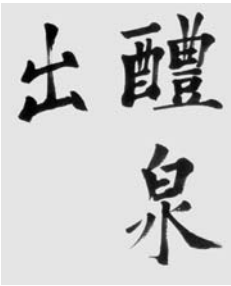
臨書作品例 九成宮醴泉銘

上條信山先生臨書



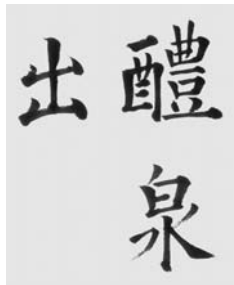
〔醴泉出〕

印象的臨書



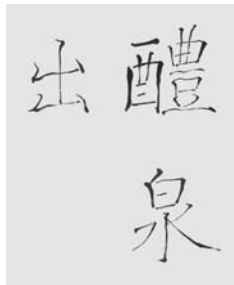
〔自解〕さらっと背勢の特質を捉えてみた。

写実的臨書



〔自解〕原帖に忠実に書いてみた。兼毫筆四号使用。

表現的臨書(A)



〔自解〕形を同じに、細い線でリズム感を出してみた。面相筆使用。

表現的臨書(B)



〔自解〕露鋒で線質にスピードをつけ、線の深さを強調してみた。羊毛筆使用。

表現的臨書(A)



〔自解〕形そのままに、藏筆で重厚な線質にしてみた。

表現的臨書(B)



〔自解〕形に変化を加えて縦画と横画の動きを強調し、清冽さを出してみた。

表現的臨書(B)



〔自解〕九成宮醴泉銘の特質を生かして、豊潤な線質で二字の有機的なリズムと調和を表現してみた。羊毛筆使用。

第48回日本の書展

会期 令和2年6月11日(木)～21日(日)

会場 国立新美術館(港区六本木)

秀拔選

〈東京展一部紹介〉——その1



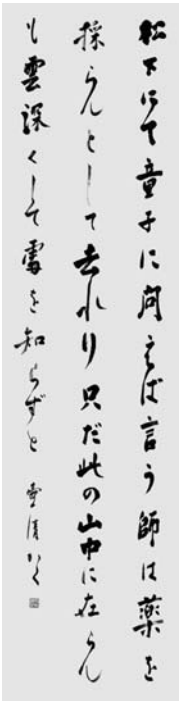
畔原 小霞



青柳 緑水



青木 橙華



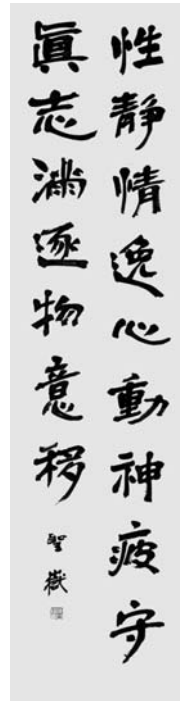
榎本 壺清



榎本 妍象



衛藤 琴光



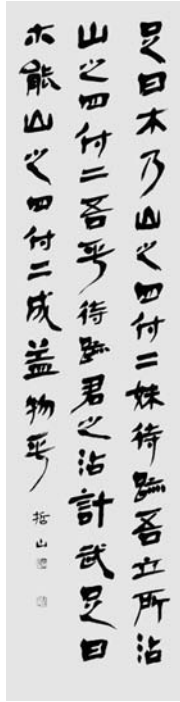
池口 聖嶽



安藤 棲嶽



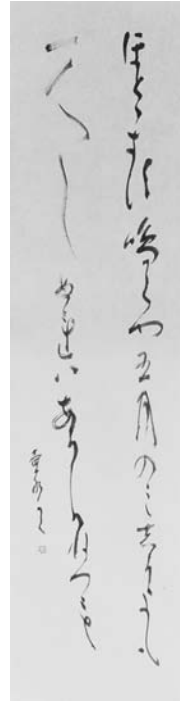
小島 紫草



上條 哲山



小泉 壺藍



小野 壺水



大場 香峰



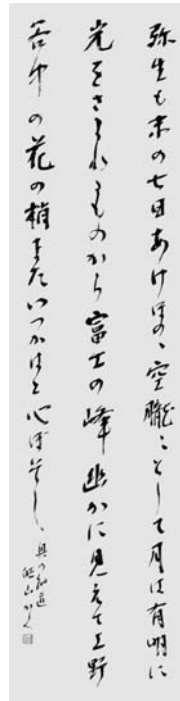
齋藤 盈月



齊田 昌静



小林 貞月



小林 皓山



児玉 葉雪



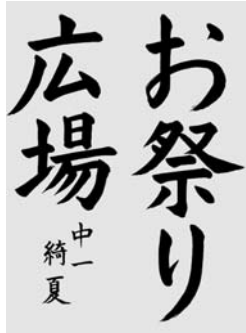
井伊 彩月 (美那会)

信山先生記念賞

第51回 全国学生書道展 優秀作品の紹介



清田 波琉 (この葉)



大山 綺夏 (竹華)



廣瀬 楓 (有象会)



平田 早穂 (聖徳大学附属女子高)



鈴木 心馨 (華雪)



進 美優 (有象 富貴会)



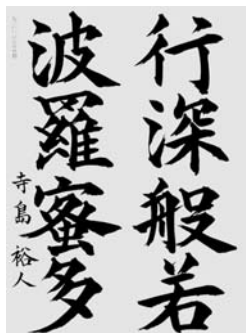
笹嶋 美音 (華雪)



小林 優梨香 (聖徳大学附属女中)



林 澄恋 (長翠岡谷)



寺島 裕人 (丸子修学館高)



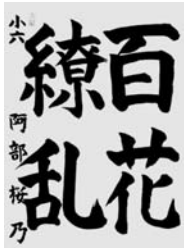
館澤 穂 (硯)



鈴木 莉彩子 (若葉)



井口 愛理
(有象虹)



阿部 桜乃
(大象会)

日本書道芸術協会準大賞



百瀬 まゆ (ひまわり)



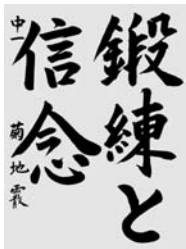
牧野 莉子 (凜心)



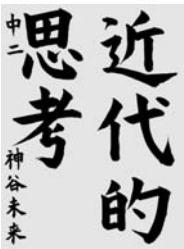
薄井 愛奈
(一絵)



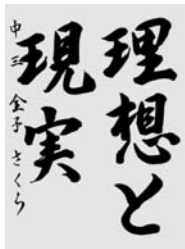
岩村 芽依
(皓花)



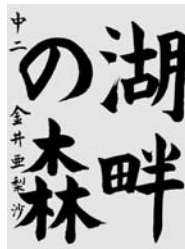
菊地 霰
(有象 富貴会)



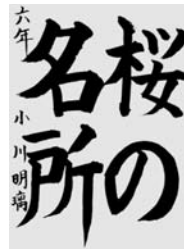
神谷 未来
(若竹)



金子 さくら
(李光)



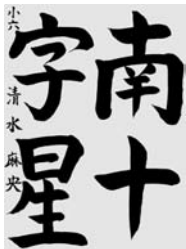
金井 亜梨沙
(練馬)



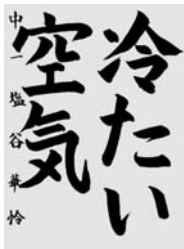
小川 明璃
(神奈川)



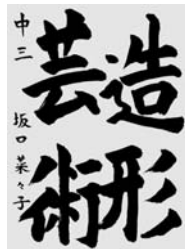
榎谷 あやか
(華雪)



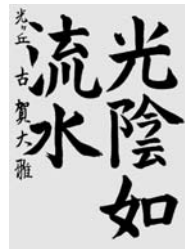
清水 麻央
(高社)



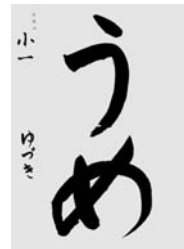
塩谷 華怜
(凜心)



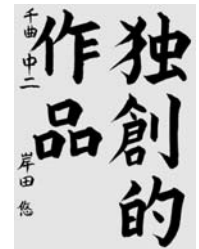
坂口 菜々子
(この葉)



古賀 大雅
(光ヶ丘)



木村 優月
(芙二)



岸田 悠
(千曲)



永石 咲季
(倭)



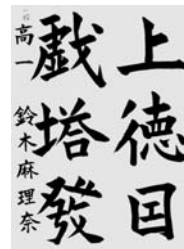
田中 彩奈
(聖徳大学附属女子高)



關屋 嶺桜奈
(太田女子高)



鈴木 結衣
(聖徳大学附属女子高)



鈴木 麻理奈
(一絵)



下山 花凜
(葉月会)

全日本書道連盟奨励賞

小五 岩立 芽依
平村の和

岩立 芽依
(光ヶ丘)

小五 増田 健吾
水光玉る

増田 健吾
(高社)

龍 君諱猛
字 神
俊哉 臨

廣瀬 俊哉
(ひまわり)

中 濱野 葵衣
木の葉
散る

濱野 葵衣
(竹華)

小ニ 畑 ひより
すおび

畑 ひより

夫靈跡
誕生
麻衣

大内 麻衣
(田園調布雙葉中高)

四年 和田 蒼葉
道

和田 蒼葉
(玄樞会)

小六 山本 優衣
出発

山本 優衣
(有象虹)

小六 悠菜
我が
大志

山田 悠菜
(伊奈)

小六 宮田 帆乃果
南十
字星

宮田 帆乃果
(玄黙)

下有路上
蒙管
彩

小倉 彩
(丸子修学館高)

君諱全
字 景完
小倉 愛加

小倉 愛加
(聖徳大学附属女子高)

小六 岡本 優奈
雪降
町

岡本 優奈
(鹿門書院)

近代的
思考
中三 董

小笠原 董
(玄樞会)

梅花
耐雪
大坪 千紗

大坪 千紗
(皓花)

友好の
かけ橋
中一 大河内 結子

大河内 結子
(聖徳大学附属女子中)

温故
知新
千尋

黒田 千尋
(名東)

青雲
大志
中一 工藤 愛明

工藤 愛明
(李光)

信固
念い
六年 菊地 七海

菊地 七海
(有象 富貴会)

永和九年歲在癸丑
暮春之初會于會稽
山陰之蘭亭脩禊事
也羣賢畢至少長咸
集此地有 懷子瞻題

神林 桃子
(新城)

知過必
改得能
高一 川島 実佳

川島 実佳
(玄樞会)

雅度思
冲融
大四 門脇 里緒

門脇 里緒
(華雪)

實計
行画
小六 篠原 輝莉

篠原 輝莉
(光ヶ丘)

柱國
魯郡
川村 高二

佐藤 美欧
(川村中高)

今僕射
挺不
美亜里

酒井 美亜里
(聖徳大学附属女子高)

世紀の
祭典
齋藤 百花

齋藤 百花
(大象会)

自然の
法則
中一 近藤 咲季

近藤 咲季
(名東)

猶且競
懷夕暢
葉

小菅 葉
(上田染谷丘高)

中二 高橋 澄
近代的
思考

高橋 澄
(虹苑)

中三 田中 葵
秋空白
い雲

田中 葵
(若竹)

大三 染谷 紀織
梅花侷
能識春

染谷 紀織
(華雪)

小六 関口 晴音
思分
存

関口 晴音
(葉月会)

鈴木 愛乃
放浪形
骸之外

鈴木 愛乃
(お茶の水女子大学附属高)

中二 清水 栄花
夜空の
流星

清水 栄花
(光ヶ丘)

中二 長谷川 琴羽
独創的
作品

長谷川 琴羽
(房風会)

一年 西由乃
水彩
絵具

西 由乃
(練馬)

中三 成瀬 明日花
森羅
万象

成瀬 明日花
(鹿門書院)

中一 中本 美咲
冷たい
空気

中本 美咲
(皓花)

小光中三 豊島 彩友
百花
繚乱

豊島 彩友
(小光)

中二 寺井 愛
独創的
作品

寺井 愛
(有象会)

中二 松宮 駿太
勇姿

松宮 駿太
(練馬)

松田 彩希
天地玄黄宇宙洪荒
日月星辰宿夜
空木草花秋收冬藏
至絲繁榮健子洞百
密猎致雨 彩希

松田 彩希
(太田女子高)

小五 前原 寛太
初日
の

前原 寛太
(右文)

小三 東 琴音
思
りい

東 琴音
(秀雪)

林 星來
ほし
なかが 年長 林せい

林 星來
(長翠岡谷)

中三 長谷川 舞
独創的
作品

長谷川 舞
(山愛)

第51回全国学生書道展を終えて
受賞された皆さん、おめでとうございます。昨年誌上展から書象
展会場での展示に変更となり、二回目となります。残念ながら表
彰式をはじめ会期中の行事は中止となりましたが、充実した展示を
することができ、多くの方々にご覧いただきました。受付期間が新
型コロナ感染拡大防止のため各学校が臨時休校中となる中で、作
品が集まるのだろうかと不安もありました。しかし、前回展を上回
る四一四三点もの力作が集まり、本当に嬉しく思いました。
出品された皆さん、ご指導ご協力いただきました先生方に、心
より感謝申し上げます。

学生展担当 江上玄光

千穂
聞至道
於先師

向本 千穂
(上田染谷丘高)



真優
臣魏徵
奉勅撰

宮本 真優
(練馬)

中二 山畑 愛菜
和歌

山畑 愛菜
(練馬)

中二 三原 和花奈
文化祭
見学

三原 和花奈
(竹華)

高 山田 純寧
之蘭亭
脩契事

山田 純寧
(名東)

中二 松本 清花
太平洋
の波

松本 清花
(竹華)

中二 山口 るな
希望の
船出

山口 るな
(李光)

第51回全国学生書道展特集

受賞者の喜びの声

(学年は出品時のものです。)

第51回全国学生書道展の受賞者の皆さん、おめでとうございます。「信山先生記念賞」および「日本書道芸術協会大賞」を受賞された皆さんの喜びの声を紹介いたします。

信山先生記念賞



さらになへ
美那支部
中二 井伊 彩月

先生から知らせを聞いた時は、本当に驚きました。今回はこのような最高の賞を頂き、とても嬉しいです。指導してくださった先生に感謝し、もっと上を目指します。



嬉しい受賞
聖徳大学附属女子中学校高等学校
高三 平田 早穂

今回はこのような賞をいただき、たいへん嬉しく思います。これからもより一層上達するよう、毎日の臨書活動や作品の制作にしっかり取り組んでいきたいと思えます。



喜び
有象会
小三 廣瀬 楓

まさかこのようなすばらしい賞をいただけるとは思っていませんでした。とてもびっくりして、家族みんなで大喜びしました。本当にありがとうございました。

日本書道芸術協会大賞



練習の成果
竹華支部
中一 大山 綺夏

学生展に向け、先生にも協力してもらい休みの日もたくさん練習していたので、入賞を知ったときはうれしかったです。これからも練習を続け、がんばります。



受賞の喜び
この葉支部
中三 清田 波琉

この度は大賞という素晴らしい賞を頂くことができ大変嬉しく思います。これまでご指導いただき支えて下さった先生や両親に感謝し、今後も更なる上を目指して努力して行きたいです。



受賞を励みに
聖徳大学附属女子中学校高等学校
中一 小林優梨香

大賞受賞とても嬉しく思っています。行書の学習を多く積んできましたので今回の受賞を励みにして行書の書体の学びを深めていきます。



更なる上達を目指して
華雪支部
中二 笹嶋 美音

この度、大賞を頂くことができたのは、いつも優しく熱心にご指導を下さる先生方のおかげだと思っています。今後も更なる上達できるように、精進していききたいと思います。



大好き♡先生と習字
富貴会
小五 進 美優

今回も大賞を頂けてとても嬉しいです。霊藍先生と習字がもともと大好きになりました。これからも、信山先生記念賞を目標に更に努力して頑張ります。



感謝
華雪支部
高二 鈴木 心馨

この度、日本書道芸術協会大賞を頂き、大変嬉しく思います。小学生の頃から教えて頂いた華雪先生、そして書道を学ぶ機会を与えてくれた家族に感謝し、今後も更なる成長を目指して日々努力していきます。



胸が躍る
若葉支部
中一 鈴木莉彩子

小学校三年生から五年間書道を習い、初めてこのような賞を頂いたのうれしくて胸が躍るようでした。ご指導して下さいました先生に感謝を忘れずこれからも頑張っていきたいです。



賞をいただいて
硯支部
中一 舘澤 穂

この度は、このようなすばらしい賞をいただき、とてもうれしく思います。賞をいただけたのは、熱心に指導してくださった先生のおかげです。これからも一生懸命がんばります。



日本書道芸術協会大賞を受賞して
丸子修学館高等学校
高一 寺島 裕人

元々楷書が大好きで、作品を書くとなるといつも「九成宮醜泉銘」を選んでしまいます。他の楷書や行書はついつい筆が遠のきます。しかし、今回はあえて「写経」に挑戦しました。勉強のつもりで書いたものが評価されて感激しています。コロナの影響で見に行けなかったことが残念でなりません。ありがとうございました。



うれしいな
長翠岡谷支部
小一 林 澄恋

日本しよどうげいじゅつきょうかいたいしようをもらえて、とてもうれしいです。かぞくも、とてもよろこんでくれました。これからもがんばります。



勉学にも励みたい
凜心支部
小六 牧野 莉子

今回、大賞を頂き大変嬉しく思います。書道で培った集中力を活かし、勉学にも励んでいきたいです。ご指導して下さいました先生、ありがとうございます。



名誉ある賞
ひまわり支部
高二 百瀬 まゆ

高校最後の年に名誉ある賞を頂き、大変嬉しく思います。高校生としての書道はあとわずかですが、先生への感謝を忘れずにこれからも練習を重ね、上達できるよう頑張りたいです。

書象かな会講習会のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大が懸念されたため、残念ながら延期となっておりましたが、九月から再開することとなりました。会場および日程は次のとおりです。

◆期日

①九月六日

会場：スイングホール 10階スカイルーム
(JR武蔵境駅)

時間：午後1時～4時

②十月四日

会場：武蔵野公会堂 第2会議室
(JR吉祥寺駅公園口)

時間：午後1時～4時

③十一月八日

会場：スイングホール 10階スカイルーム
(JR武蔵境駅)

時間：午後1時～4時

④十二月六日

会場：武蔵野公会堂 第1会議室
(JR吉祥寺駅公園口)

時間：午後1時～4時

◆講師

中村巍山先生 坂牛静心先生

※欠席される方は、宿題をお送りください。添削をしてお返しいたします。新たに参加を希望される方、またご質問等のある方は書象会事務局までお電話ください。

書象会

☎ 0422(53)9743

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

目標達成



若竹支部 中二
小林 久琉美

私は、小学生の時から習字を始めて、ずっと特待生になることを目標に今までがんばってきました。目標を達成できて良かったし、今回達成できたのは先生などが指導してくれたおかげなのでしっかり感謝したいです。
支部長先生より一言 合格おめでとう。努力が実を結んでの目標達成ですね。中学生になり忙しい中、頑張りました。

念願の特待生



山愛支部 中二
丸山 ひかり

小学校一年生から八年間続けてきて今回、目標だった特待生に硬筆、毛筆共になることができ、とても嬉しいです。長年ご指導してくださった先生や応援してくれた家族には、感謝の気持ちでいっぱいです。
支部長先生より一言 丁寧な受け答えのひかりさん。筆の文字にも表れています。いつまでもきれいな文字を大切に。

達成感



この葉支部 中三
坂口 菜々子

小学生の頃はあまり実感の持てなかった「特待生になる」という大きな目標も中学生になると現実味を帯びて行きとても焦ったけれど、最後の最後に合格することが出来、達成感が大きかったです。有難うございました。

支部長先生より一言 最後まで頑張った結果です。おめでとう。味わった達成感を思い出し、様々な場面で生かして下さい。

目標を達成して



房風会支部 中二
長谷川 琴羽

ずっと目標にしてきた特待生になれたことをとても嬉しく思います。これまで指導していただいた先生に本当に感謝しています。これから勉強や部活が大変になりますが、上達できるよう努力していきたいです。
支部長先生より一言 転居しても熱心に通い続けて特待生合格、おめでとう。これから受験勉強、目標達成頑張ってください。

達成!



雅支部 中二
山元 寧士

僕は、小学校一年生から書道を習い始めました。今回、毛筆も特待生になることができました。七年間書道を熱心に教えてくれた先生に感謝しています。書道で学んだことをこれからの人生に活かして行きたいです。
支部長先生より一言 二冠達成、おめでとう。日頃の努力が結果を出しましたね。更なる活躍を期待します。

二冠達成!



この葉支部 中三
清田 波琉

毛筆の特待生に合格し、次の目標にしていた硬筆にも合格することができました。これもマイペースな私を指導し、支えてくれた先生のおかげです。これからも大好きな書道を頑張りたいと思います。
支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。今後は波琉さんの芸術性を発揮し、様々な書体にもチャレンジしてみてください。



△漢字条幅▽ 評 荻田 光山

吉池採舟 運筆力強く、生気みなぎる快作。

豊田桂秀 縦のラインがすっきりとして、さわやか。

垣内孝子 墨量豊かで、骨力も感じる秀作。

竹野翠紗 一字一字の結体がよく、充実した佳作。

百瀬寿香 半切の空間をうまく生かした布置が見事。

影山天性 横画を長く引く力が強く、全体観も秀逸。

村山麗恵 やや細身ながら、一点一面の力大変強し。

平林静千 肉太で一貫した書きぶり、すばらしい。

△条幅随意▽ 評 市澤 静山

鈴木花照 字形よく全体のまとめもよく立派な作品。

松田司峰 骨格が正しく、線の張りが感じられる。

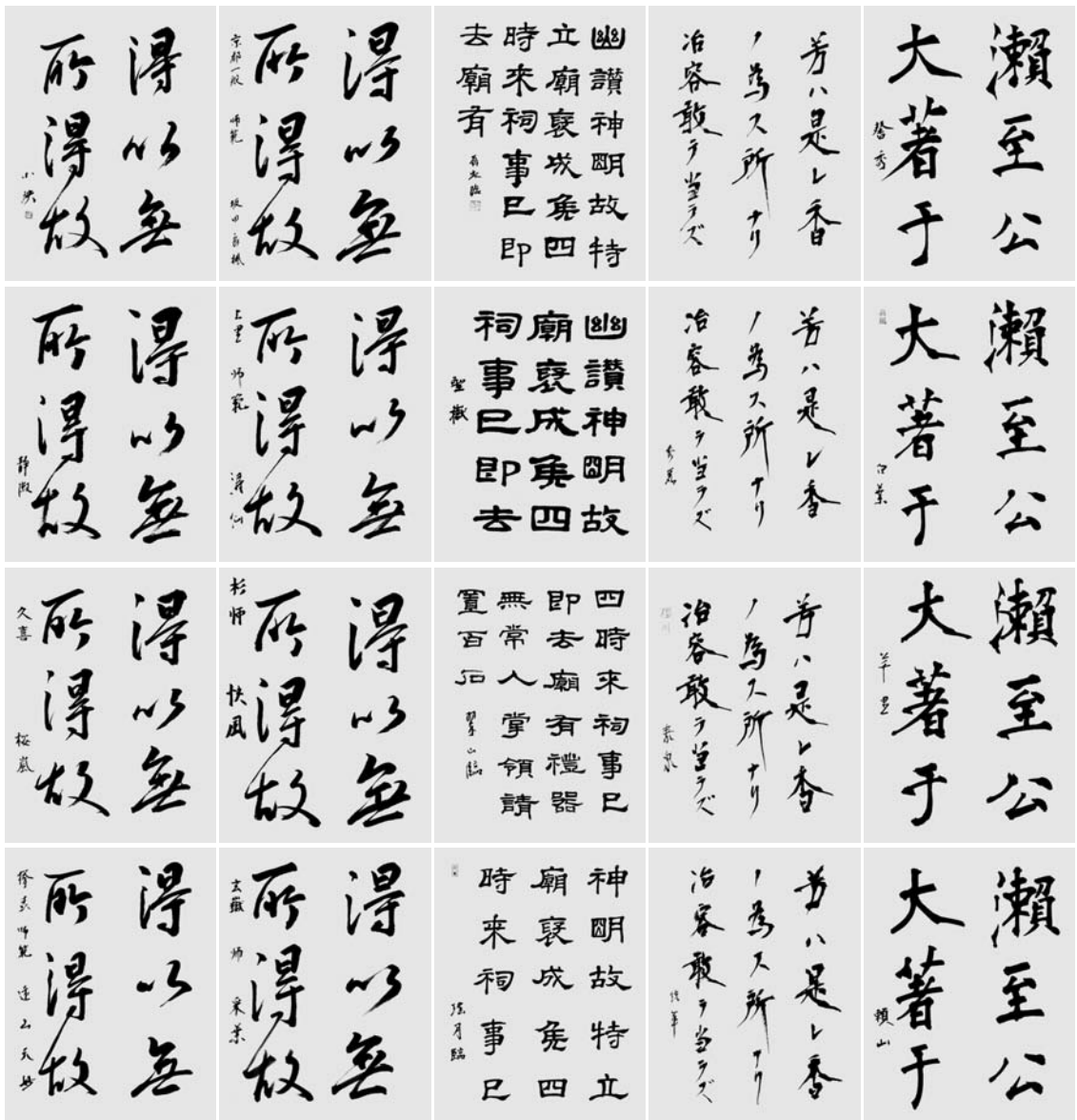
金子夕紅 軽快な動きで、美しい線がすばらしい。

△通信条幅▽ 評 柳澤 玄嶽

加藤穆舟 むずかしい課題を気持ちよくまとめた。

山崎惜春 運筆が丁寧で鈍度の高い中鋒の線質美大佳。

井上悠水 潤濁の変化が美しく自然な流れあり。



基本課題

評樋口玄山

馨 秀 スンナリ伸びる迷いのない線が魅力的。
 白 葉 起筆の鋭い逆筆が線に深さを生む。
 半 里 ニジミが鋭角的な造形を優しく包む。
 頼 山 どこにもゴマカシのない堂々の作。

研究課題

評小淵石峯

篠塚葉暁 精彩のある伸びやかな線、爽快である。
 中田秀麗 やや小ぶりだが形がよく清々しい。
 小島泰泉 文字の大小を巧みに取り入れ線も強靱。
 杉本統華 一点一画に気合いの入った充実した作。

古典課題

評樋口玄山

雨 虹 等圧、直線的な運筆が強さを表現した。
 聖 嶽 含墨の豊かさが線に深みを見せている。
 翠 山 字間の明るさが扁平な造形にマッチした。
 瑤 月 形の安定感に真面目な学習態度を見る。

師範部

△行書▽

評杉山暁雲

坂田良楓 筆が立って、折り返しがきれいに抜けた。
 田島涛仙 墨色美しく、大きな動きで伸びやか。
 快 風 転折をキチッと書いて堅実な筆運び。
 馬場采葉 収束から発散の変化が大きくて楽しい。
 安藤小映 豊かな含墨なれど力強く引き締めて見事。
 武田静淑 羊毫を使いこなして、暖かみのある線質。
 高橋桜嵐 縦画の決め所がキチッと印象的。
 遠山天妙 墨が美しく入っているのは適切な速度。



高橋太一 気前のよい運筆。書道に迷いが無い。

中島泰憲 墨は多いが余白が美しく雄大に感じる。

山崎惜春 書き終わってから遠くへ抜き去る大きさ。

高平光紗 横画に意を持った厳格な態度がよい。

木村友光 淡墨で筆が走り、濁りなき純な作品。

小西琴月 さりげなく流れがありサラッと書けた。

山口智真 字間を広くとって爽やかに表現できた。

竹下恵月 リズムに乗って伸びやかに書けた秀作。

△仮名▽ 評 久保 妍山

静 唱 緩急をつけた線で、全体感よくまとめた。

梢 琴 布置のよい作品。リズムカルに仕上げた。

秋 麗 線に伸びやかさがある。この調子で。

泉 梢 濃淡の変化をつけ、大胆な筆致で出来た。

豊 翠 ゆったりとした線で書かれた作品。佳。

雅 幸 細太をつけながら、雄大な線で書けた。

径 石 全体構成が大変よく出来た作品でした。

洋 子 息の長さがみえる線質で書けています。

貞 月 強弱をつけた線で、力強く仕上げられた。

華 英 半紙に工夫を凝らし、上手な線で書けた。

小 映 少し小ぶりの作品だが、良く出来た作。

陽 子 墨色の変化をつけて、まとめられた作品。

中三 山畑愛菜 着陸	小二 まな つばめ	小四 楓 雨ふる音	六年 進美優 強い決意	中三 神谷 未来 技術の向上
名東小六 柴内咲良 急行	二年四下 小宙くるみ つばめ	四年 小林美咲 雨ふる音	小六 城本悠 強い決意	中三 里見晴香 技術の向上
四年 鈴木愛菜 馬	小一 はな かさ	小三 玉田千陽 のに色	小五 小林 菜白 正直な人	中一 古内 亜香里 青雲大志
小ニ そうた 上	小一 かこ かさ	小三 朱璃 のに色	小五 中川璃音 正直な人	中一 上野詩 青雲大志

学 生 部

評 関 香風

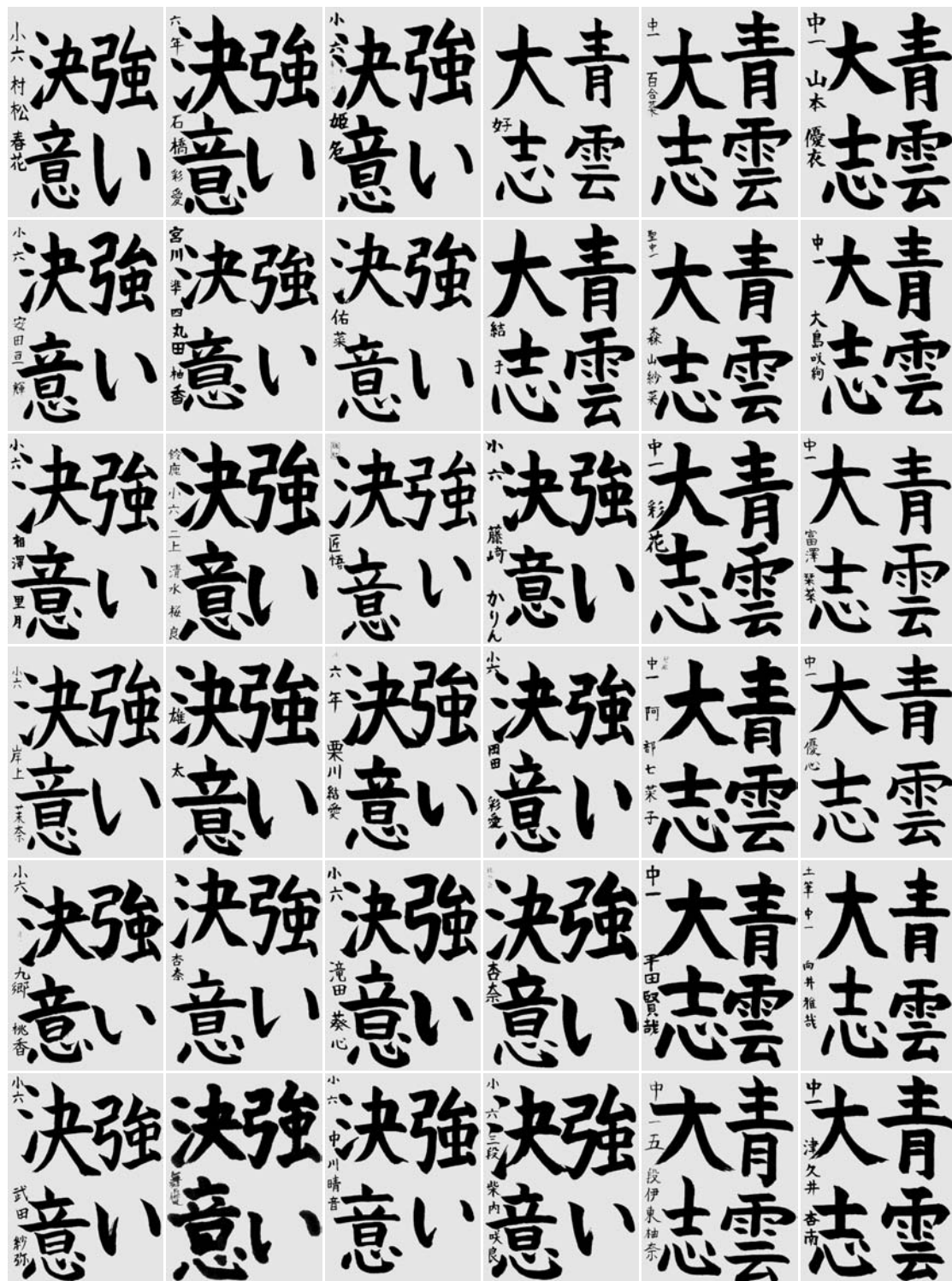
神谷未来 一点一画集中して書かれ名前も上手。
 里見晴香 素直な書き方でよい。墨色も美しい。
 古内亜香里 伸びやかな線、整った形、豊かな作品。
 上野 詩 横画の等間隔を意識して、更に力強い。
 進 美優 正しい筆づかいで、堂々とした書きぶり。
 城本 悠 真面目な書きぶりがみえる。力強い。
 小林菜白 美しい形で書けている。すなおな作品。
 中川璃音 どっしりした線が、たのもしい。
 廣瀬 楓 しっかりした線で形よく書けている。
 小林美咲 形もよく、半紙に上手におさめた。
 玉田千陽 うでがよく動いていて大らかにできた。
 原島朱璃 いっしょうけんめい書いていてよい。
 大内菜奈 のびのびと形よく書けました。
 小田久瑠実 力づよくて元気です。
 内川華奈 どうどうとしています。
 下山花湖 かたかがよく、しっかりかけました。

半紙 随意

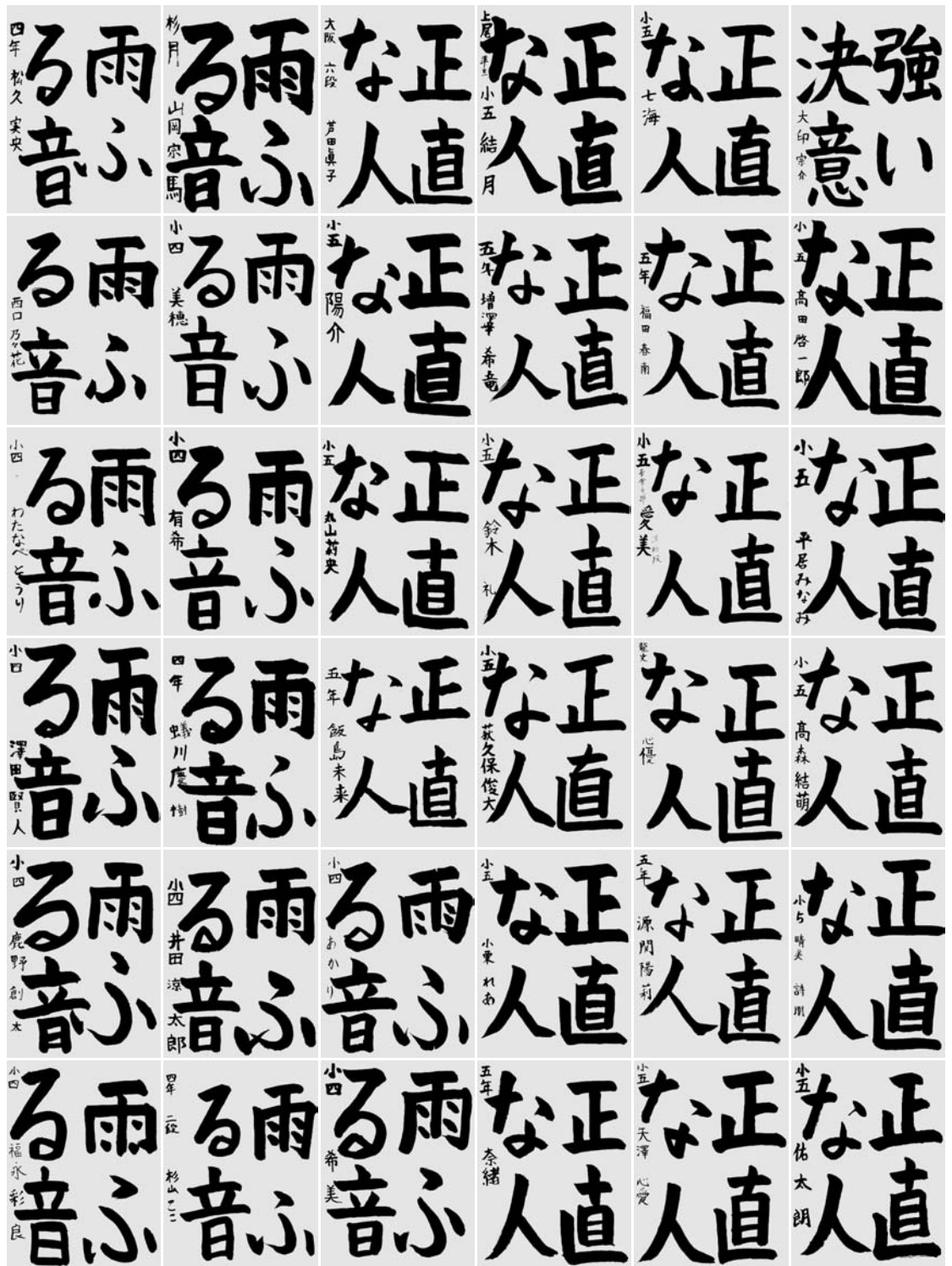
評 日比野照悦

山畑愛菜 点画がしっかりととして、名前も立派。
 柴内咲良 筆先まで気持ちが行き届いています。
 鈴木愛菜 立派な馬で元気よく大きく書けました。
 浜野颯太 どうぞうとした線で書けました。

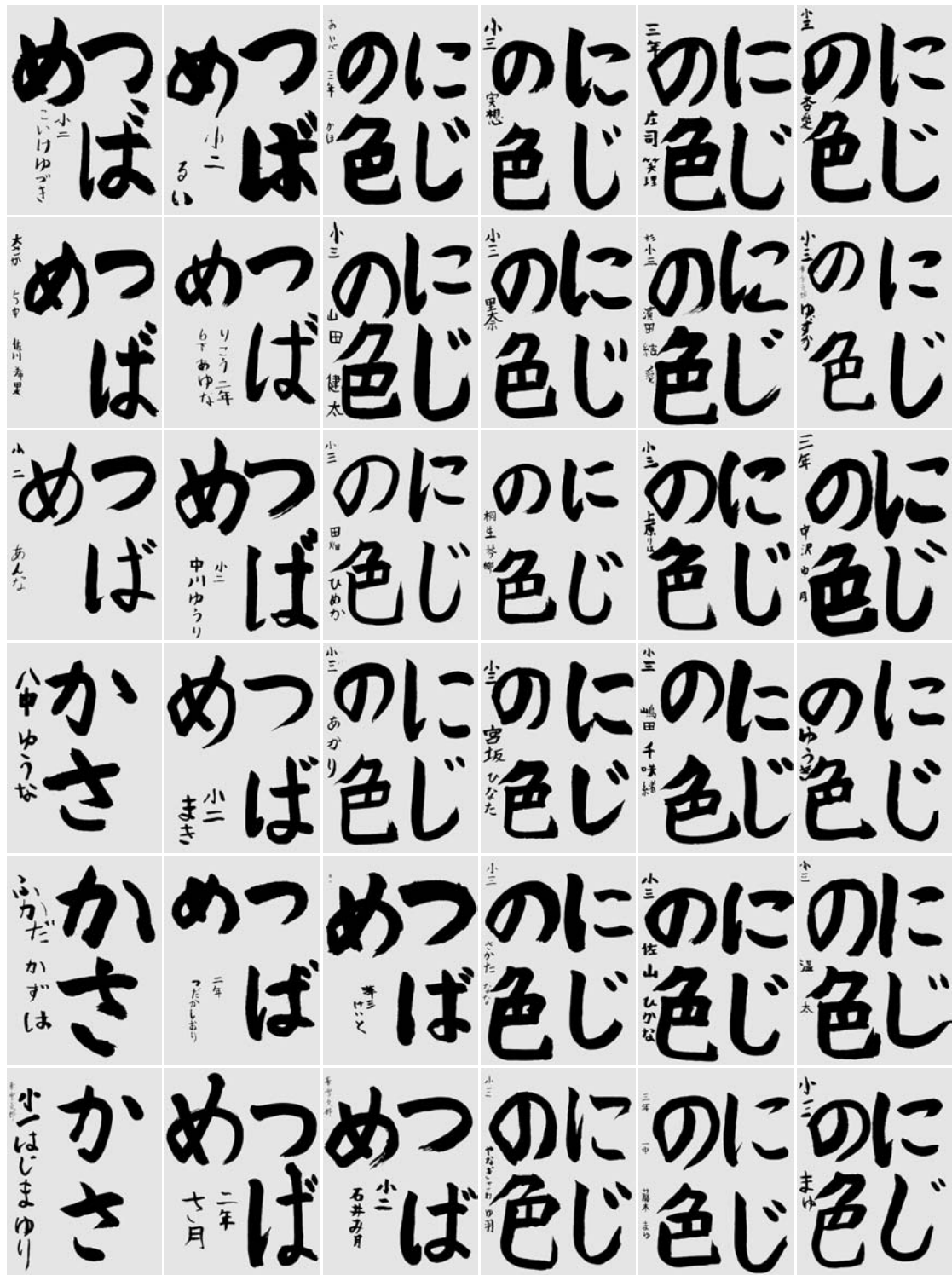
このページに掲載された人には書象会より記念の筆をさし上げます。



優生	倭雪	秀雪	練馬	房風	飯田	りん	龍文	一絵	鈴鹿	宮川	この	玄黙	光丘	書之	珠紅	成城	華雪	名東	杜会	千曲	霞墨	松戸	雅	照澤	城彩	大象	秀雪	聖	山愛	練馬	土筆	静翠	正桂	茅野	有虹
武田	九郷	岸上	相澤	安田	村松	中澤	大井	鈴木	清水	丸田	石橋	中川	滝田	栗川	山本	赤松	古田	柴内	森田	岡田	藤崎	秋谷	大澤	伊東	平田	阿部	辻	森山	渡辺	津久井	向井	島村	富澤	大島	山本
紗弥	桃香	茉莉	里月	巨輝	春花	舞優	杏奈	雄太	桜良	柚香	晴音	葵心	結愛	匠悟	佐菜	原姫	咲良	奈	杏奈	彩愛	かりん	結子	好	柚奈	賢哉	七菜子	彩花	紗菜	百合菜	雅哉	優心	菜菜	咲絢	優衣	



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|
| 和八 | 練馬 | 星 | 玄樸 | 大田 | 皓花 | 有穂 | この | 光丘 | 華雪 | 杉月 | 倭 | 秀雪 | 小四 | 柏心 | 石峯 | 花蓮 | 大阪 | 渚 | 可児 | ひま | 秀雪 | 湊 | 上尾 | 高社 | 平成 | 龍文 | 華雪 | 硯 | 若松 | 光丘 | 晴美 | 玄黙 | 瑞祥 | 【小五】 | 玄樸 |
| 福永 | 鹿野 | 澤田 | 渡邊 | 西口 | 松久 | 杉山 | 井田 | 蟻川 | 風澤 | 石坂 | 山岡 | 蘆原 | 榎本 | 飯島 | 丸山 | 眞家 | 芦田 | 岩崎 | 小栗 | 荻久 | 鈴木 | 増澤 | 猪俣 | 矢澤 | 源関 | 岡野 | 谷川 | 福田 | 原口 | 倉内 | 遠藤 | 高森 | 平居 | 大印 | |
| 彩良 | 創太 | 賢人 | 桃李 | 乃々 | 心央 | 実瑚 | 太郎 | 慶樹 | 有希 | 美穂 | 宗馬 | 希美 | 朱里 | 未来 | 莉央 | 眞介 | 眞子 | 奈緒 | 嶺愛 | 禮 | 希竜 | 結月 | 心愛 | 陽莉 | 心優 | 愛美 | 春南 | 七海 | 士ほ | 結明 | 結明 | 高田 | 宗介 | | |



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|-----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|
| 華雪 | 龍文 | 芙二 | 【小一】 | 中野 | 大阪 | 和山 | 源愛 | 有創 | 虹津 | 凜俣 | 李中 | 玄光 | 華根 | 芙二 | 【小二】 | 中野 | 須宮 | 須坂 | 愛心 | 若古 | 志柳 | 練阪 | 玄宮 | 月桐 | 水倉 | 皓藤 | 有佐 | 霞嶋 | 竹上 | 杉原 | この | 光庄 | 瑞松 | 成富 | 新中 | 華千 | 名興 | 【小三】 | | | | |
| 雪文 | 深田 | 柏島 | | 榎口 | 佐川 | 小池 | 團高 | 津高 | 俣田 | 中川 | 高橋 | 根岸 | 石井 | 小野 | | 倉田 | 田畑 | 山健 | 古屋 | 柳果 | 阪奈 | 宮坂 | 桐生 | 鈴木 | 倉科 | 藤木 | 佐山 | 嶋田 | 上原 | 濱田 | 庄司 | 福田 | 松久 | 富沢 | 中沢 | 千葉 | 興津 | | | | | |
| 羽島 | 優菜 | 万葉 | | 希奈 | 優月 | 紗月 | 麻希 | 優希 | 步那 | 瑠偉 | 都月 | 圭翔 | | | あかり | ひめか | 健太 | 果歩 | 奈々 | 奈々 | ひなた | 里奈 | 実想 | まゆ | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 | 陽奏 |

海が近づいて、夏の海は大きな波がうちよせています。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

収穫したばかりの人参を食べた。形はいびつだが、とても新鮮で実にうまい。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

近くの自動車工場の見学をして安全に対する取り組みを学びました。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

台風が近づいて、夏の海は大きな波がうちよせています。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

あめ上がりののそらに七いろのにじがみえます。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

あめ上がりののそらに七いろのにじがみえます。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

あめ上がりののそらに七いろのにじがみえます。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

天にありては異地にありては花。人にありては愛。うら美しきものの最たるや。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

収穫したばかりの人参を食べた。形はいびつだが、とても新鮮で実にうまい。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

近くの自動車工場の見学をして安全に対する取り組みを学びました。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

台風が近づいて、夏の海は大きな波がうちよせています。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

あめ上がりののそらに七いろのにじがみえます。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

あめ上がりののそらに七いろのにじがみえます。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

あめ上がりののそらに七いろのにじがみえます。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

収穫したばかりの人参を食べた。形はいびつだが、とても新鮮で実にうまい。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

近くの自動車工場の見学をして安全に対する取り組みを学びました。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

台風が近づいて、夏の海は大きな波がうちよせています。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

あめ上がりののそらに七いろのにじがみえます。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

あめ上がりののそらに七いろのにじがみえます。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

あめ上がりののそらに七いろのにじがみえます。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

あめ上がりののそらに七いろのにじがみえます。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

収穫したばかりの人参を食べた。形はいびつだが、とても新鮮で実にうまい。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

近くの自動車工場の見学をして安全に対する取り組みを学びました。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

台風が近づいて、夏の海は大きな波がうちよせています。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

あめ上がりののそらに七いろのにじがみえます。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

あめ上がりののそらに七いろのにじがみえます。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

あめ上がりののそらに七いろのにじがみえます。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

あめ上がりののそらに七いろのにじがみえます。
有象 中三 飯田 中三 飯田 中三

- (硬筆)
- 【一般】石峯 西嶋 石舟 若竹 柄澤 憧月 川島 実佳
 - 【中学】高社 小田切日奈 有象 飯田 恰奈 有象 寺井 愛 杉 岡本 優奈
 - 【小五・六】名東 阿部 桜乃 八潮 西澤 凜乃
 - 有穂 川久保美怜 柳原 里緒 秀雪 篠田 葉月 華雪 河嶋 里奈
 - 【小三・四】園部 仁弓 平成 小林 美咲 練馬 小関 紗和 美菜 久村日向子 雅 佐々木響輝
 - 【小一・二】龍文 早野 愛未 さわ 房野 瑚々奈 霞墨 島田 知佳 和 西原 永結 神奈 古谷 海翔

書之	高風	文化	東光	信大	神龍	横二	北府	小穂	大穂	笠原	瑞祥	杉	横二	千曲	長野	成城	文化	優生	虹美	珠美	高風	八潮	若松	秀雪	勝北	小穂	静平	横二	光二	籠文	籠文	書集	飯山	榊山	羽田				
関戸	北藤	安部	丸山	大谷	松尾	細藤	森下	當野	木下	牛山	服部	高柳	赤澤	安藤	宮島	中村	猪俣	日黒	目黒	吉川	奥山	高風	八潮	川島	若松	秀雪	勝北	小穂	静平	横二	籠文	籠文	書集	飯山	榊山	羽田			
結	さ	玄	久	東	大	有	名	大	八	中	小	船	華	雪	秀	志	志	志	志	志	志	志	志	志	志	志	志	志	志	志	志	志	志	志	志	志	志	志	
佐藤	村山	森山	平山	青柳	寺脇	渡邊	中村	唐澤	齊藤	出口	工藤	笠原	古谷	遠藤	鯨岡	野上	中村	日黒	吉川	奥山	高風	八潮	川島	若松	秀雪	勝北	小穂	静平	横二	籠文	籠文	書集	飯山	榊山	羽田				
藤山	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	
若松	李光	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原	笠原		
東岡	榎本	佐藤	加藤	宇野	宮下	高柳	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	
玄美	名東	大東	美東	皓大	吉野	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	
小渡	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	
石游	希望	静望	船橋	高橋	産吉	名東	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	
北野	田村	星佳	岸圭	羽田	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	
若珠	成城	映心	大原	笠原	照澤	秀雪	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	
小玉	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加
山富	高社	中野	笠原	大井	四谷	みな	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	
大槻	池田	坂田	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	
笠原	高風	華雪	杉生	優生	美光	産吉	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	
猿落	熊山	小林	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	
千曲	承玄	光丘	書之	須坂	大東	華雪	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	
西八	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	志戸	
吉田	谷地	倉谷	登志	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加
高飯	静翠	皓成	茅野	新野	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加
佐完	伊勢	佐藤	小川	桂山	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加
四谷	多尾	尾崎	赤澤	理金	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加
石川	禮谷	尾崎	赤澤	理金	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加
宮地	竹友	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	長集	
都佐	佐木	岸野	留内	羽田	津田	長川	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加	山加

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with 10 columns and 20 rows of names and numbers. The table lists members of various clubs and their associated numbers. The names are written in Japanese characters, and the numbers are in the rightmost column of each row. The table is organized into sections by club name, such as '準四', '準三', '準二', etc., and includes specific club names like '神奈川支部', '北府支部', '希望支部', etc.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Table with 10 columns and 25 rows of names and numbers. Columns represent different groups (e.g., 泉華支部, 仙台支部) and rows represent individuals with their respective numbers and group affiliations.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Table with multiple columns and rows listing names, grades, and affiliations. Includes categories like '書之会', '芙蓉第二', '芙蓉第五', '平成', '宝春', '房風会', '星', '前原', '松戸', '三池', '水代', '美苑', '美菜', '美那', '湊', 'みなみ野', '峰', '宮川', '宮地', '雅', '御代田', '名東', 'めぐみ', '杜の会', '八潮', '倭', '有家', '有家虹'.

Table with 10 columns and 10 rows of names and grades. Includes categories like '有穂支部', '優生支部', '石文支部', etc. Each cell contains a name and a grade level (e.g., 準一, 準二, 準三, etc.).

注意 1. 作品には必ず支部名(学年) 段級位 氏名をお書き下さい。
2. 貼付するバーコード出品券の上段の出品課題の○印、段級位も忘れずに正しく書けているかご確認ください。
※上記にご注意いただき、正しい登録がされると誤りによりチェック等の作業がなくなります。ご協力下さい。

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

入会案内

◎「書象」の入会希望者は、いつでも、どなたでも御入会できます。

◎入会手続きは、住所・氏名を明記し、誌代六ヶ月分(三ヶ月でも可)以上を添えてお申し込みください。

◎書象誌送付時、バーコード申請用紙を同封しますので、必要事項を記入し競書出品の際に一緒に提出して下さい。

◎送金の際、「新入会」「継続」の別を明確にし、何月号からと明記してください。

◎新入会員で書歴(他誌での段級位、書道展における成績)のある方は、相当段級に編入いたしますから、書歴と作品を本部へお送りください。(審査料一体につき一般部一〇〇〇円、学生部五〇〇円)

◎前納誌代は如何なる場合といえども、他の費用に充当、または返却いたしませんので、お含みおきください。

※以上の手続きは、個人会員の場合は直接本部へ、支部会員になられる場合は支部長に申し込んでください。

競書出品規定

◎出品部門の種類はつぎのとおり

〈小中学部〉

- ・毛筆規定 [学毛]
- ・硬筆規定 [学硬]

令和二年八月一日発行(毎月一回)第百六十八巻 第八号 通巻七七号

<http://www.shoshou.com>

定価六一五円 送料八五円

〈一般部〉

- ・随意 [学随]
- ・楷書臨書規定(隔月) [臨規]
- ・行書臨書規定(隔月) [臨規]
- ・仮名規定 [仮規]
- ・硬筆規定 [一硬]
- ・漢字条幅規定(隔月) [条規]
- ・隷書条幅規定(隔月) [条規]
- ・条幅随意 [条随]
- ・基本 [基本]
- ・研究 [研究]
- ・古典研究 [古典]

※◎入会手続きは、「住所」「電話番号」「氏名」を明記し、誌代三ヶ月分、または六ヶ月分前納でお申込下さい。

※◎作品には、必ずバーコード出品券を作品の左下に貼付すること。(出品券なき場合は無効とする)

◎作品には、支部名(二字)・段級位(規定部)・氏名を明記すること。

◎規定部は、各部それぞれに段級位の、他の部門への転用はできません。

◎新規出品は、氏名の上に「新」と表示すること。

◎段級位のない規定部作品は最下位に発表することがあります。出品の際確認し、必ず明記してください。

◎基本・研究・古典研究・随意の各部門には段級位はありません。入選作のみ発表します。

※その他の注意

☆出品の際記入の段級位は、翌月号掲載の新しい成績にて出品し、その段級位で審査を受けるわけですが、出品までに翌月号がお手元に届かない場合は、現在までの段級位を書いて「要調」と必ず書き添えてください。(隔月課題はその必要なし。)

本部で調査して、昇級していれば書き改めます。段級位に不正があった場合は、掲載後であってもとり消します。

☆多数まとめて出品するときは、部門別にまとめて出品してください。

☆今回出品の成績発表は翌々月号に掲載されます。一般部は部門別発表。小中学部については、支部会員は支部別発表、個人会員は「その他」の欄に発表されます。

☆締切日を厳守のこと。遅着の場合は掲載できません。

☆作品送付の際「書象〇月号競書作品中」と朱書してください。

氏名	発行人 (有) 書象
	代表 上 條 節 夫
	東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六
	郵便番号180-0001 電話〇四二(五三)九七四三
	振替口座 〇〇一九〇一七二二五六九一
	振替名義 (有) 書象
	印刷所 株式会社 リンクス